（様式）

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付： 2016 年 11 月 7 日

事業名： 平成28年熊本地震における支援事業

申請受付番号：897

団体名： コミサポひろしま

事業完了日： 2016 年 10 月 15 日

助成金額　　　1,000,000 円 （事業実施のために使った助成金の総額）

事業内容：
（1） 事業対象地域 ： 熊本県上益城郡益城町
（2） 事業目的 ： 被災地域の緊急復興支援を通した、被災者の支援
（3） 活動人数 ： 1名～3名
（4） 活動期間 ： 6月25日～10月15日
（5） 活動内容
① 被災家屋の補修・応急処置
・梅雨、雨対策のための被災家屋のブルーシートの養生等
・被災家屋の屋根等からの落下危険物の除去（瓦、屋根材等）
② 被災家屋からの貴重品、家財の運び出し
・倒壊家屋内からの貴重品の運び出し
③ 被災家屋から避難所等への物資の搬出
④ 災害ボランティアセンター等からのボランティアコーディネート
⑤ その他、協力団体と連携した活動の実施
（連携団体） 日本財団、DRT-Japan、風組、め組、社会協議会災害ボランティアセンター 等

（6） 対応ニーズ数 ： 約120件 一日当たり2件平均

事業評価：

1. 事業目標の達成状況：

【契約時の目標】

被災地域の家屋補修や応急処置を通した、雨漏り等による家屋の2次被害の防止、および、被災住民の支援

【目標の達成状況】

2. 事業実施によって得られた成果：

（1） 家屋補修や応急処置を通した、雨漏り等による家屋の2次被害の防止と被災者支援について

発災から3カ月ほどが過ぎ、4月に補修が行われた家屋・屋根について、ブルーシートや土嚢袋の痛みが目立ち、一部破れた土嚢袋からガレキや土が漏れ出し、落下の可能性がある家屋や、破れたブルーシートから雨漏りが発生した家屋などが多くみられました。

また、全壊家屋等の解体や、業者による家屋の本格的な修繕も始まりましたが、被災家屋が多く、解体は終了までに2年程度、修繕も実施までに多くの時間を有する状況のため、本格的な修繕を待つ間、出来る限り雨等による被害を減らしたいとの依頼が多く寄せられました。

それらの内容に対応するため、コミサポひろしまでは、協力する団体と共に、被災者のニーズをもとに、被災家屋への対応、ブルーシートの養生や、危険物の除去等を行いました。

活動により、雨漏りによる家屋の2次被害等を一定程度防ぐことが出来、結果、被災住民の負担の軽減につながったと考えます。

（2） 被災家屋からの貴重品等の運び出し

家屋の危険度判定が実施され、赤紙の家屋については、一般のボランティアでは対応を行うことがで着ない状況でした、それらの家屋では、被災住民のみで片付けや荷物の運び出しを行っており、コミサポひろしまでは、安全を十分確保したうえで、それら家屋からの貴重品等の救出作業、搬出作業を行いました。多くの被災者が、仕事をしながらの片付けや、仮設住宅との往復での作業を行っており、少しでも作業を手伝うことで、被災者の負担軽減に繋がったのではないかと考えます。

（3）災害ボランティアセンター等からのボランティアのコーディネート

これまでの活動から、地域住民との繋がりも増え、保育園の整備の手伝いなど、（1）、（2）以外での依頼も多く受けるようになりました。その中で、益城町災害ボランティアセンターとも協力し、一般のボランティアさんの受入れ、コーディネートを実施しました。

（4） その他、協力団体と連携した活動

コミサポひろしまからは1名が現地に常駐して活動しています。9月、10月については、その他、広島土砂災害や、北関東の水害で、ボランティアセンターの運営に携わったスタッフ2名が活動の支援を行いました。

活動規模は非常に小さいですが、継続、常駐して活動を行う団体は少なく、地域住民との信頼関係を築くとともに、短期間のみ被災地で活動する団体と地域のパイプ役としての役割も果たすことができました。今後の活動においても、この点は十分に活かし、被災者への支援にあたる予定です。

3. 成功したこととその要因

（1） 災害ボラセン等が対応できない、特殊ニーズへの対応が可能なこと

（2） 発災から現在まで、一貫して被災地域で活動を継続していること

（3） 小さな団体だからこそ、被災者1人1人とコミュニケーションをしっかり取りながら対応できる機動性と臨機応変な対応力

（4） 協力各団体との連携体制と信頼関係が活動のベースにあること。

4. 失敗したこととその要因

（1） 活動の継続性や地域との連携について

被災家屋の補修・修繕など、特殊性の高い活動を行っていることから、活動自体を地域で自主的に実施すること、ノウハウを引き継ぐことが難しい状況です。

また、業者の不足と、進む家屋の2次被害の現状を考えると、活動をどの段階で終了するのか、その判断が非常に難しい状況です。

上記の状況を踏まえつつ、これまで地域の被災者の皆さんと出来た信頼関係を活かしつつ、復興に向けた仮設住宅等での被災者コミュニティ支援など、活動の内容をシフトさせていく必要性があると考えています。

事業成果物： 活動写真抜粋
※毎日の活動については、HP「コミサポひろしま」 http://comsup.saloon.jp/
または、Facebook「コミサポひろしま」 をご参照ください。
活動報告書
4月から10月15日までの活動のまとめ。